

食品安全情報（微生物） No.20 / 2017（2017.09.27）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次

【[米国疾病予防管理センター（US CDC）](#)】

1. 輸入マラドールパイヤに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ感染アウトブレイク（2017年9月14日付更新情報）
2. 輸入マラドールパイヤに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella Urbana*）感染アウトブレイク（初発情報）
3. 輸入マラドールパイヤに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella Newport*、*Salmonella Infantis*）感染アウトブレイク（初発情報）
4. 輸入マラドールパイヤに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ（*Salmonella Anatum*）感染アウトブレイク（初発情報）

【[欧州食品安全機関（EFSA）](#)】

1. そのまま喫食可能な（RTE）食品におけるリステリア（*Listeria monocytogenes*）リスク評価の精度向上を目指して：フードチェーンの各段階で分離された株とヒト由来分離株の全ゲノムシーケンシング（WGS）解析による比較

【[欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）](#)】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

【[英国食品基準庁（UK FSA）](#)】

1. 英国食品基準庁（UK FSA）が生の鶏肉の料理を喫食しないよう助言

【[アイルランド保健サーベイランスセンター（HPSC Ireland）](#)】

1. 妊婦、高齢者および免疫機能が低下している人のリステリア感染リスク

【[ProMed mail](#)】

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報

【各国政府機関等】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)
<http://www.cdc.gov/>

1. 輸入マラドールパパイヤに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ感染アウトブレイク (2017年9月14日付更新情報)

Multistate Outbreak of *Salmonella* Infections Linked to Imported Maradol Papayas
September 14, 2017

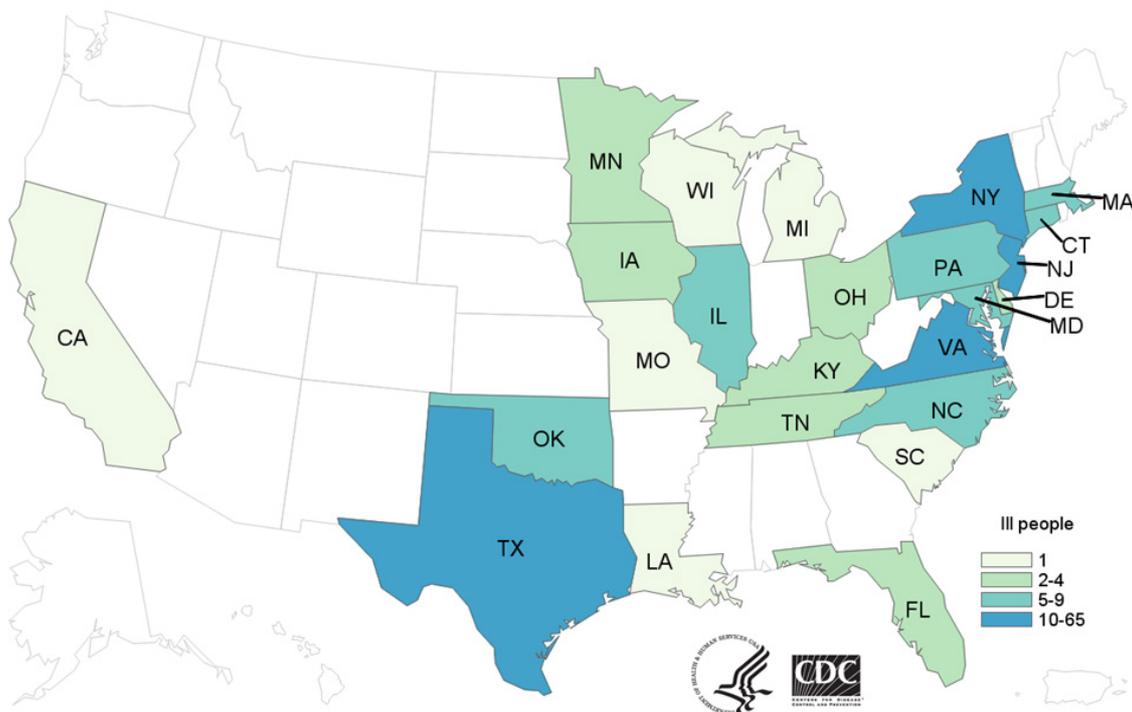
<https://www.cdc.gov/salmonella/kiambu-07-17/index.html>

本アウトブレイクは、メキシコから輸入されたマラドールパパイヤに関連して発生し現在調査中の異なるアウトブレイク4件のうちの1件である。

2017年9月1日付の更新情報以降、サルモネラ (*Salmonella* Thompson、*S. Kiambu*、*S. Agona*、*S. Gaminara*) 感染アウトブレイク患者が7州から新たに計10人報告された。

本アウトブレイクでは2017年9月11日までに計24州から *S. Thompson* (135人)、*S. Kiambu* (59)、*S. Agona* (10) および *S. Gaminara* (6) アウトブレイク株の感染患者が計210人報告されている (図)。

図：サルモネラアウトブレイク株感染患者数 (2017年9月11日までに報告された居住州別患者数、n=210)



患者の発症日は 2017 年 5 月 17 日～8 月 27 日である。患者の年齢範囲は 1 歳未満～95 歳、年齢中央値は 37 歳である。当該の情報が得られた患者では、205 人のうち 124 人 (60%) が女性、162 人のうち 109 人 (67%) がヒスパニック系であり、168 人のうち 67 人 (40%) が入院し、ニューヨーク市の患者 1 人が死亡した。

(食品安全情報 (微生物) 本号、No.19/2017 (2017.09.13)、No.18/2017 (2017.08.30)、No.17/2017 (2017.08.16) US CDC、No.16/2017 (2017.08.02) US FDA、US CDC 記事参照)

2. 輸入マラドールパイヤに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella Urbana*) 感染アウトブレイク (初発情報)

Multistate Outbreak of *Salmonella Urbana* Infections Linked to Imported Maradol Papayas

September 14, 2017

<https://www.cdc.gov/salmonella/urbana-09-17/index.html>

本アウトブレイクは、メキシコから輸入されたマラドールパイヤに関連して発生し現在調査中の異なるアウトブレイク 4 件のうちの 1 件である。

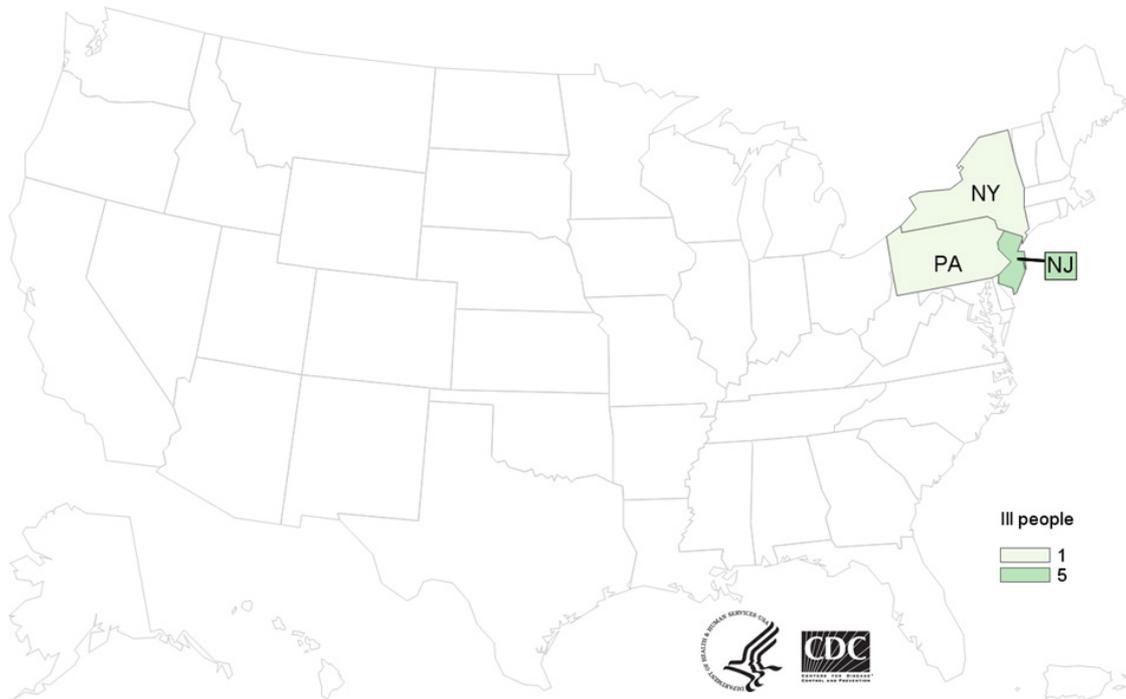
米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella Urbana*) 感染アウトブレイクを調査している。

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用している。PulseNet は、公衆衛生当局および食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。患者から分離されたサルモネラ株には、PFGE (パルスフィールドゲル電気泳動) 法および全ゲノムシーケンシング (WGS) 法によって DNA フィンガープリンティングが行われる。CDC の PulseNet 部門は、アウトブレイクの可能性を特定するため、このような DNA フィンガープリントの国内データベースを管理している。WGS 法による DNA フィンガープリントは PFGE 法に比べ、より詳細な情報をもたらす。

アウトブレイク調査

2017 年 9 月 11 日までに *S. Urbana* アウトブレイク株の感染患者が 3 州から計 7 人報告されている (図)。

図：サルモネラ (*S. Urbana*) アウトブレイク株感染患者数 (2017年9月11日までに報告された居住州別患者数、n=7)



患者の発症日は 2017 年 7 月 23 日～8 月 14 日である。患者の年齢範囲は 1 歳未満～57 歳、年齢中央値は 1 歳で、4 人 (57%) が女性である。情報が得られた 6 人のうち 5 人 (83%) がヒスパニック系であり、4 人 (67%) が入院した。死亡者は報告されていない。

患者に発症前 1 週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査を行ったところ、回答した 4 人のうち 3 人がパパイヤの喫食を報告した。この割合 (75%) は、FoodNet (食品由来疾患アクティブサーベイランスネットワーク) が過去に行った調査 (<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/FNExpAtl03022011.pdf>) で健康なヒスパニック系の人の 22% が夏期の調査前 1 週間にパパイヤを喫食したと回答した結果と比べて有意に高かった。

この夏に開始されたパパイヤ関連のサルモネラ (*S. Thompson*、*S. Kiambu*、*S. Agona*、*S. Gaminara*) アウトブレイク調査を受け、FDA はメキシコ産パパイヤの検査を強化した。その結果、FDA は El Zapotanio 農場 (メキシコ La Huerta) が出荷したパパイヤから *S. Urbana* を検出した。PFGE 法によるパターンおよび WGS の結果について、パパイヤ由来 *S. Urbana* 分離株と CDC の PulseNet データベースに当該データが保存されていた患者由来株との比較が行われた。その結果、パパイヤ由来 *S. Urbana* 分離株は複数の患者由来 *S. Urbana* 分離株と DNA フィンガープリントを共有することが明らかになった。この結果は、本アウトブレイクの患者が汚染されたマラドールパパイヤの喫食により発症したことを裏付けるさらなるエビデンスとなっている。

FDA は、汚染が見つかったパパイヤの積荷は廃棄され、米国では販売されなかったと報告している。El Zapotanio 農場のパパイヤは 2017 年の早い時期に米国で販売されたが、FDA は、これらの製品は保存可能期限が過ぎたため現在は米国市場に流通していないとしている。

異なる農場由来のパパイヤに関連して異なる 4 件のアウトブレイクが特定されたことから、CDC は、メキシコの他の農場のパパイヤもサルモネラに汚染されていて患者が発生している可能性があるかと懸念している。FDA は、他の農場由来のパパイヤがサルモネラに汚染されていないかを調べるためにメキシコ産パパイヤの検査を続けている。

(食品安全情報(微生物) 本号、No.19/2017 (2017.09.13)、No.18/2017 (2017.08.30)、No.17/2017 (2017.08.16) US CDC、No.16/2017 (2017.08.02) US FDA、US CDC 記事参照)

3. 輸入マラドールパパイヤに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Newport、*Salmonella* Infantis) 感染アウトブレイク (初発情報)

Multistate Outbreak of *Salmonella* Newport and *Salmonella* Infantis Infections Linked to Imported Maradol Papayas

September 14, 2017

<https://www.cdc.gov/salmonella/newport-09-17/index.html>

本アウトブレイクは、メキシコから輸入されたマラドールパパイヤに関連して発生し現在調査中の異なるアウトブレイク 4 件のうちの 1 件である。

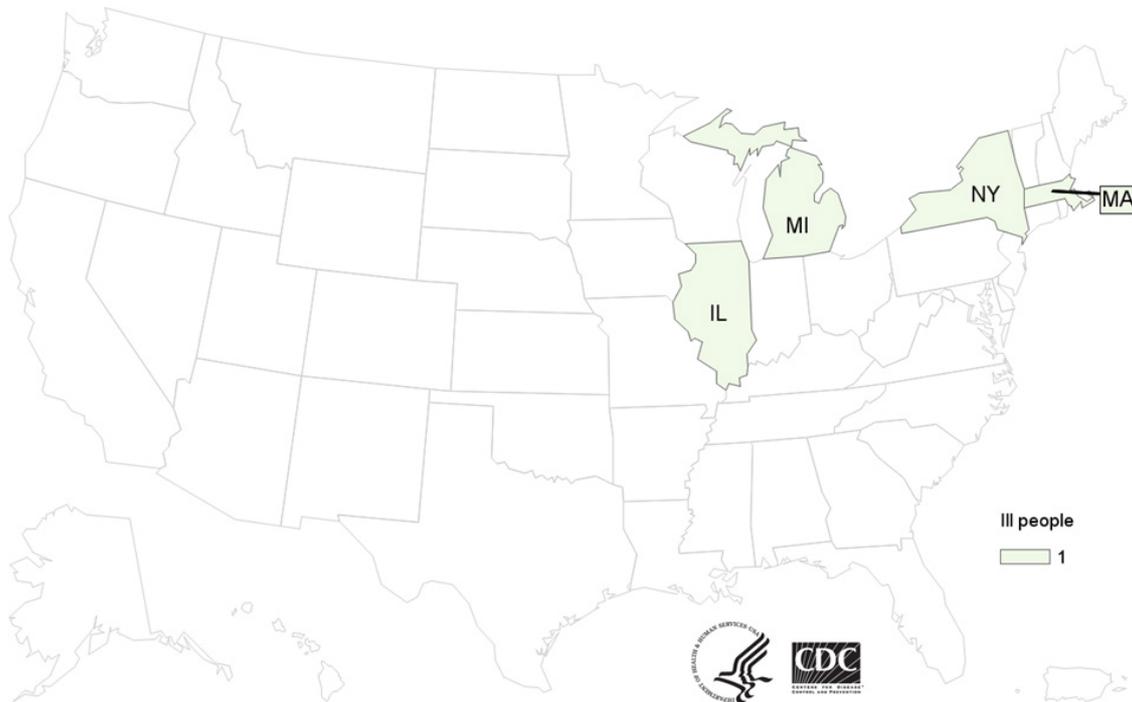
米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella* Newport、*S. Infantis*) 感染アウトブレイクを調査している。

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用している。PulseNet は、公衆衛生当局および食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。

アウトブレイク調査

2017 年 9 月 11 日までに *S. Newport* および *S. Infantis* アウトブレイク株の感染患者が 4 州から計 4 人 (*S. Newport* 3 人、*S. Infantis* 1 人) 報告されている (図)。

図：サルモネラ (*Salmonella* Newport、*Salmonella* Infantis) アウトブレイク株感染患者数 (2017年9月11日までに報告された居住州別患者数、n=4)



患者の発症日は 2017 年 7 月 19 日～8 月 7 日である。患者の年齢範囲は 40 歳～82 歳、年齢中央値は 63 歳で、2 人 (50%) が女性である。2 人 (50%) がヒスパニック系で、2 人 (50%) が入院した。死亡者は報告されていない。

患者に発症前 1 週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査を行ったところ、回答した 3 人全員がパパイヤの喫食を報告した。この割合 (100%) は、FoodNet (食品由来疾患アクティブサーベイランスネットワーク) が過去に行った調査 (<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/FNExpAtl03022011.pdf>) で健康なヒスパニック系の人の 22%が夏期の調査前 1 週間にパパイヤを喫食したと回答した結果と比べて有意に高かった。

この夏に開始されたパパイヤ関連のサルモネラ (*S. Thompson*、*S. Kiambu*、*S. Agona*、*S. Gaminara*) アウトブレイク調査を受け、FDA はメキシコ産パパイヤの検査を強化した。その結果、FDA は Rancho El Ganadero 農場が栽培して Caraveo Produce 農場 (メキシコ Tecomán) が出荷したパパイヤから *S. Newport* および *S. Infantis* を検出した。PFGE (パルスフィールドゲル電気泳動) 法によるパターンおよび WGS (全ゲノムシーケンシング) の結果について、パパイヤ由来サルモネラ分離株と CDC の PulseNet データベースに当該データが保存されていた患者由来株との比較が行われた。その結果、パパイヤ由来の *S. Newport* および *S. Infantis* 分離株は複数の患者由来分離株と DNA フィンガープリントを共有することが明らかになった。この結果は、本アウトブレイクの患者が汚染されたマラ

ドールパパイヤの喫食により発症したことを裏付けるさらなるエビデンスとなっている。

FDA は、汚染が見つかったパパイヤの積荷は廃棄され、米国では販売されなかったと報告している。当該農場のパパイヤは 2017 年の早い時期に米国で販売されたが、FDA は、これらの製品は保存可能期限が過ぎたため現在は米国市場に流通していないとしている。

異なる農場由来のパパイヤに関連して異なる 4 件のアウトブレイクが特定されたことから、CDC は、メキシコの他の農場のパパイヤもサルモネラに汚染されていて患者が発生している可能性があることを懸念している。FDA は、他の農場由来のパパイヤがサルモネラに汚染されていないかを調べるためにメキシコ産パパイヤの検査を続けている。

(食品安全情報(微生物) 本号、No.19/2017 (2017.09.13)、No.18/2017 (2017.08.30)、No.17/2017 (2017.08.16) US CDC、No.16/2017 (2017.08.02) US FDA、US CDC 記事参照)

4. 輸入マラドールパパイヤに関連して複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella Anatum*) 感染アウトブレイク (初発情報)

Multistate Outbreak of *Salmonella* Anatum Infections Linked to Imported Maradol Papayas

September 14, 2017

<https://www.cdc.gov/salmonella/anatum-9-17/index.html>

本アウトブレイクは、メキシコから輸入されたマラドールパパイヤに関連して発生し現在調査中の異なるアウトブレイク 4 件のうちの 1 件である。

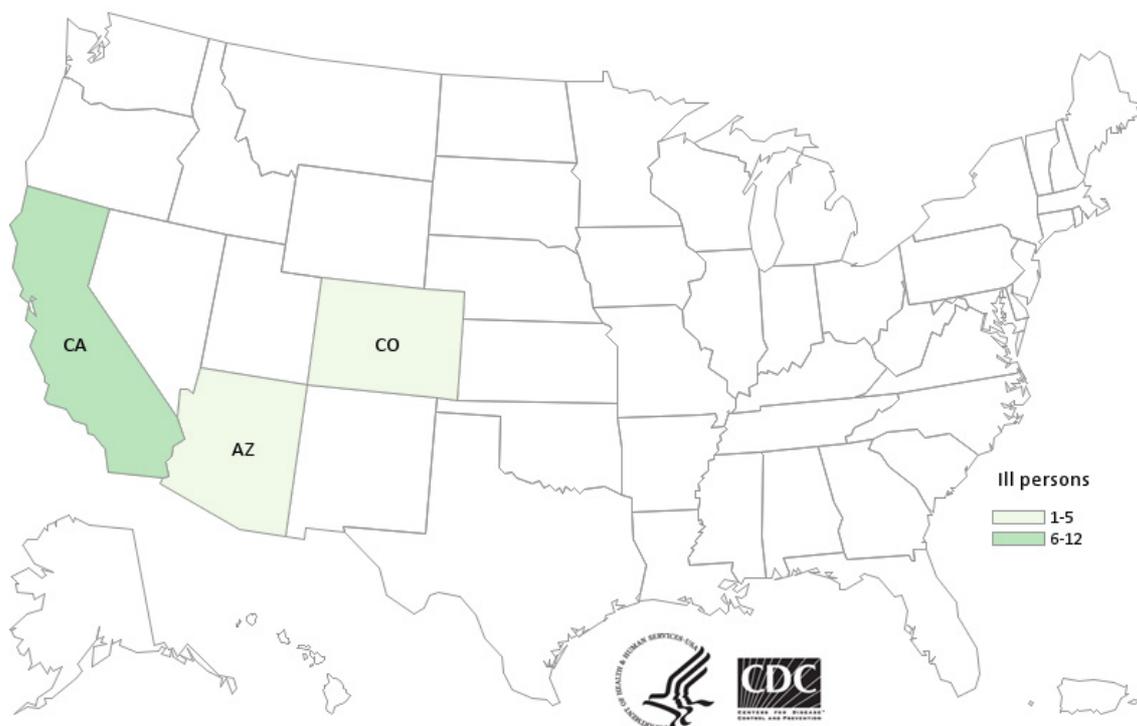
米国疾病予防管理センター (US CDC)、複数州の公衆衛生・食品規制当局および米国食品医薬品局 (US FDA) は、複数州にわたり発生しているサルモネラ (*Salmonella Anatum*) 感染アウトブレイクを調査している。

本アウトブレイクの公衆衛生調査では、アウトブレイク患者を特定するために PulseNet (食品由来疾患サーベイランスのための分子生物学的サブタイピングネットワーク) のシステムを利用している。PulseNet は、公衆衛生当局および食品規制当局の検査機関による分子生物学的サブタイピング結果を CDC が統括する全米ネットワークシステムである。

アウトブレイク調査

2017 年春、CDC は複数州にわたり発生したサルモネラ (*S. Anatum*) 感染アウトブレイクを調査した。アウトブレイク株の感染患者は 3 州から計 14 人が報告されている (図)。全ゲノムシーケンシング (WGS) 解析の結果は、患者由来の *S. Anatum* 分離株が相互に遺伝学的に近縁であることを示した。このような遺伝学的近縁関係は、本アウトブレイクの患者の感染源が共通のものである可能性が高いことを意味している。

図：サルモネラ (*Salmonella Anatum*) アウトブレイク株感染患者数 (2017年9月11日までに報告された居住州別患者数、n=14)



患者の発症日は2016年12月20日～2017年4月8日である。患者の年齢範囲は1歳未満～85歳、年齢中央値は38歳で、92%が女性である。情報が得られた11人のうち、10人(91%)がヒスパニック系であり、5人(45%)が入院した。カリフォルニア州の患者1人が死亡した。

患者に発症前1週間の食品喫食歴およびその他の曝露歴に関する聞き取り調査を行ったところ、回答した8人のうち7人がパパイヤの喫食を報告した。この割合(88%)は、FoodNet(食品由来疾患アクティブサーベイランスネットワーク)が過去に行った調査(<https://www.cdc.gov/foodnet/surveys/FNExpAtl03022011.pdf>)で健康なヒスパニック系の人の22%が調査前1週間にパパイヤを喫食したと回答した結果と比べて有意に高かった。さらに、これら7人のうち4人は同じ食料品チェーン店でパパイヤを購入していた。

調査時に、疫学情報により本アウトブレイクの可能性の高い感染源としてパパイヤが指摘されたが、汚染パパイヤの具体的な供給元を特定することはできず、患者発生の報告が収束した後にアウトブレイク調査は終了した。

FDAは、輸入パパイヤの1検体から*S. Anatum*が検出されたことを2017年9月4日にCDCに通知した。この検体は、メキシコの栽培業者 Productores y Exportadores de Carica Papaya de Tecomán y Costa Alegre 社(メキシコ Tijuana)が生産したパパイヤで

あった。WGS 解析の結果から、パパイヤ由来の分離株と 2017 年春に発症した 14 人の *S. Anatum* 感染患者に由来する分離株とが遺伝学的に近縁であることが示された。上述の 4 人の患者がパパイヤを購入した食料品チェーン店にマラドールパパイヤを供給したのは Bravo Produce 社であった。CDC は、FDA が今回パパイヤから分離した *S. Anatum* 株を受け取り、2017 年春の調査終了後に発症した患者に由来する分離株のうち、その DNA フィンガープリントが今回のパパイヤ由来分離株と一致する株を PulseNet データベースで検索した。その結果、新たに 6 人の患者が特定されたため、CDC は、この 6 人も Bravo Produce 社により輸入されたマラドールパパイヤと関連しているかどうかを調査している。

2017 年 9 月 10 日、Bravo Produce 社は、Frutas Selectas de Tijuana 社が包装したマラドールパパイヤの回収を開始した。回収対象のマラドールパパイヤの栽培業者は Productores y Exportadores de Carica Papaya de Tecomán y Costa Alegre 社である。このパパイヤは、2017 年 8 月 10 日～29 日にカリフォルニア州に出荷された。回収対象のパパイヤは包装業者である Frutas Selectas de Tijuana 社のラベルにより識別できる。

CDC および州・地域の公衆衛生当局は、新たな患者を特定して聞き取り調査を行うため、PulseNet を介した検査機関サーベイランスを続けている。FDA は、他の農場のパパイヤがサルモネラに汚染されていないかを調べるためにメキシコ産パパイヤの検査を続けている。

(食品安全情報(微生物) 本号、No.19/2017 (2017.09.13)、No.18/2017 (2017.08.30)、No.17/2017 (2017.08.16) US CDC、No.16/2017 (2017.08.02) US FDA、US CDC 記事参照)

● 欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu>

そのまま喫食可能な (RTE) 食品におけるリステリア (*Listeria monocytogenes*) リスク評価の精度向上を目指して：フードチェーンの各段階で分離された株とヒト由来分離株の全ゲノムシーケンシング (WGS) 解析による比較

Closing gaps for performing a risk assessment on *Listeria monocytogenes* in ready-to-eat (RTE) foods: activity 3, the comparison of isolates from different compartments along the food chain, and from humans using whole genome sequencing (WGS) analysis

23 February 2017

<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.2903/sp.efsa.2017.EN-1151/pdf> (報告書 PDF)

<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.2903/sp.efsa.2017.EN-1151/abstract>

本報告書は、欧州食品安全機関 (EFSA) の委託により実施されたプロジェクト研究「そのまま喫食可能な (RTE) 食品におけるリステリア (*Listeria monocytogenes*) リスク評価の精度向上を目指して：フードチェーンの各段階で分離された株とヒト由来分離株の全ゲノムシーケンシング (WGS) 解析による比較」の結果を記載したものである。この研究の主な目的は、欧州連合 (EU) 域内のフードチェーンの各段階で RTE 食品から分離された *L. monocytogenes* 株とヒト患者由来の *L. monocytogenes* 分離株について、WGS 解析により相互に比較することである。本研究のために計 1,143 株の *L. monocytogenes* 株が選択され、このうち 333 株がヒト臨床分離株、810 株がフードチェーン由来株であった。これらの分離株について WGS 解析が行われた。

系統発生的解析により、*L. monocytogenes* の各系統および系統内のクローン集団 (clonal complex) について明確な区分けが可能であった。シーケンズデータに種々のタイピング技術を適用することにより、遺伝的多様性および疫学的関連性の問題に対処する枠組みが得られた。9 件のアウトブレイクの後ろ向き解析で、分離株とアウトブレイクとの正確な関連付けが WGS 法により可能であった。このことから、WGS 法は国内および国際アウトブレイクの調査における強力なツールであることが示された。感染源特定モデルにより、ウシがヒト疾患の主要な感染源であることが示されたが、その他の動物も感染源として寄与しており、また、全般的に寄与度の値は不確実性が大きかった。先験的に関連なしとされていた分離株間で一貫した遺伝的関連が多く特定された。複数カ国由来の株間で特定される場合もあった。フードチェーンにおける生残・増殖やヒトでの疾患発生の可能性に関連する暫定的なマーカー遺伝子を探索するため、いわゆる病原性遺伝子、抗菌剤耐性 (AMR) 遺伝子、および食品加工チェーンでの生残を可能にする遺伝子の検出が行われた。

本研究により、WGS 法がもたらす主な利益の 1 つとして、病原性、抗菌剤耐性、感染源特定、サーベイランス、アウトブレイクの探知・調査などの幅広い問題に 1 回の実験で対処できることが立証された。

(食品安全情報 (微生物) No. 2 / 2017 (2017.01.18) EFSA 記事参照)

● 欧州委員会健康・食品安全総局 (EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety)

http://ec.europa.eu/dgs/health_food-safety/index_en.htm

食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

http://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/?event=searchResultList>

2017年9月11日～2017年9月22日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

オランダ産の生鮮イガいのサルモネラ (25g 検体陽性)、オランダ産の各種家禽肉製品のサルモネラ (*S. Typhimurium*、25g 検体陽性)、タイ産冷凍生鶏むね肉 (オランダ経由) のサルモネラ (*S. Enteritidis*、25g 検体陽性)、イタリア産タレッジョチーズのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性)、ポーランド産の卵による食品由来サルモネラ (*S. Enteritidis*) アウトブレイクの疑い、フランス産冷凍鶏むね肉のサルモネラ (*S. Typhimurium*、25g 検体陽性) など。

注意喚起情報 (Information for Attention)

イタリア産 *Valerianella locusta* (葉物野菜の一種) の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx2+*)、ウルグアイ産冷凍牛肉の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx2+*、*eae+*、O26)、英国産クラス B 活ザルガイの大腸菌 (5,400 MPN/100g)、ラオス産の生鮮スイートバジルの大腸菌 (5.0x10,000 CFU/g)、ラオス産の生鮮パセリの大腸菌など。

フォローアップ喚起情報 (Information for follow-up)

スペイン産 *Micromesistius poutassou* (タラ科の魚) のアニサキス、ハンガリー産トウモロコシ穀粒のカビ、ドイツ産菜種ミールのサルモネラ (*S. Tennessee*、25g 検体陽性)、英国産ザルガイの大腸菌 (9,200 MPN/100g)、ドイツ産麻種子の昆虫の排泄物、フランス産冷蔵イガいのサルモネラ (*S. Typhimurium*、25g 検体陽性)、スペイン産冷蔵メルルーサのアニサキスなど。

通関拒否通知 (Border Rejection)

ブラジル産冷凍鶏むね肉半身 (ブイヨン付き) のサルモネラ (25g 検体陽性)、ブラジル産冷凍塩漬け鶏むね肉半身のサルモネラ (25g 検体陽性)、タイ産冷凍加水鶏肉のサルモネラ

(25g 検体 1/5 陽性)、タイ産冷凍家禽肉製品のサルモネラ (25g 検体 2/5 陽性)、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Leeuwarden*, 25g 検体陽性)、マダガスカル産バニラパウダーのセレウス菌 (89,000 CFU/g) とサルモネラ (*S. Durban*, 25g 検体陽性)、中国産落花生のカビ、ブラジル産冷凍味付け鶏むね肉のサルモネラ (25g 検体陽性) など。

● 英国食品基準庁 (UK FSA: Food Standards Agency, UK)

<http://www.food.gov.uk/>

英国食品基準庁 (UK FSA) が生の鶏肉の料理を喫食しないよう助言

FSA advises against eating raw chicken dishes

11 September 2017

<https://www.food.gov.uk/news-updates/news/2017/16517/fsa-advises-against-eating-raw-chicken-dishes>

英国の新聞デイリー・ミラー (2017年9月9日付) に、生の鶏肉の料理を安全であると考えている人がいることを示す記事が掲載された。これを受けて英国食品基準庁 (UK FSA) は、生の鶏肉を喫食しないように改めて注意を促している。

生の鶏肉は安全ではなく、食中毒の原因となる可能性がある。鶏肉を供する前には、全体から湯気が出るまで必ず完全に火を通すべきである。完全に火が通ったかどうかについては、鶏肉の最も厚い部分を切り、湯気が出ていること、ピンク色の部分がないこと、肉汁が透明であることを確認する。

記事では、良質な条件下で放し飼いにされ、清潔な施設で処理された鶏であれば、あまり食中毒の心配はないと述べられているが、これは正しくない。飼育条件に関係なく、生の鶏肉の喫食は安全ではない。

生の鶏肉を喫食すると、カンピロバクター、サルモネラおよび大腸菌に感染することがある。感染した場合の症状は腹痛、下痢、嘔吐、発熱などであり、重症化する可能性もある。

- アイルランド保健サーベイランスセンター (HPSC Ireland : Health Protection Surveillance Centre, Ireland)

<http://www.hpsc.ie/hpsc/>

妊婦、高齢者および免疫機能が低下している人のリステリア感染リスク

Listeria risk to pregnant women, the elderly and people with weakened immune systems

September 1, 2017

<http://www.hpsc.ie/news/title-16721-en.html>

リステリア症は、リステリア (*Listeria monocytogenes*) が原因の細菌感染症である。通常、*L. monocytogenes* に汚染された食品を喫食することによって感染する。妊婦、高齢者、免疫機能が低下している人などにとっては特に危険な感染症である。そのため、これらの人々は、以下に挙げるような高リスクの食品の喫食を避けるべきである。

- ・ 生（未殺菌）乳および生乳を原材料とする食品
- ・ ソフトチーズおよびカビ熟成チーズ（フェタ、ブリー、カマンベール、青かびチーズなど）
- ・ パテ
- ・ スモークサーモン

妊娠中の感染は、早産、胎児の髄膜炎、流産、死産の原因となる場合がある。このため、アイルランド保健サーベイランスセンター (HPSC) は、感染リスクを最小化する方法について妊婦に助言するパンフレットを作成している。また、英語など 6 カ国語で記載された妊婦への助言が「safefood」から入手可能。

<http://www.safefood.eu/Publications/Consumer-info/Pregnancy-and-Listeria.aspx>

-
- ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

コレラ、下痢、赤痢最新情報

Cholera, diarrhea & dysentery update 2017 (103) (102) (101) (100) (99) (98) (97) (96)

25, 21, 19, 15, 14, 13 & 12 September 2017

コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
イエメン	9/25		4/27～9/24	(疑い)725,488	2,110
		(参考)世界 42 カ国	2015 年	計 172,454	
		(参考)ハイチ	2011 年	340,311	
イエメン	9/21	Hajjah 県 (死亡者数最多の県)			約 400
		Hudaida 県 (患者数最多の県)		91,000～	
イエメン	9/18		直前 1 週間	(疑い)約 40,000	
スーダン	9/22	ハルツーム州 Jebel Awlia の学校 1 校		(疑い)20～ (確定)5	
		南ダルフール州 Nyala の Otash キャンプ	9/18～19	10	
		北ダルフール州 El Fasher の ZamZam キャンプ	9/18	5	
		北部州	8 月中旬	数十人	
スーダン	9/21	紅海州 Sinkat	9/18～19		3
			9/20	3	
		青ナイル州	2016 年 8 月～	約 24,000	940
スーダン	9/13	Khartoum North		2	
		ハルツーム Nierteti 病院	9/9～10	6	
		同上	直前数カ月	300～	21
		ハルツーム Bashair 病院	3 週間前	新規 16	
		同上	直前 1 週間の 1 日平均	25～30	
		中央ダルフール州 Nierteti 病院	9/11～12 9/12 時点の入院 患者	新規 6 15	
スーダン	9/10	西ダルフール州 Murnei 避難民キャン プ	9/6 9/8		6 3

		同上と周辺の村	9/8	新規 11 計 28	
	9/10	南ダルフール州 Kalma キャンプ	9/7～8	27	3
		青 ナイル州 Ed Damazin と周辺	9/6～7	数十人	6
		同州 Ed Damazin と El Roseiris		計 50～	
		センナール州 Singa の病院	9/7～8	4	
チャド	9/21	Sila と Salamat うち Salamat		(死亡者含む) 計 312 19	計 52 2
		全国	2011 年	17,200	450～
ナイジェリ ア	9/19	ボルノ州 うち Maiduguri Dikwa Monguno	8 月～	計 2,627 1,425 600 602	計 48
ナイジェリ ア	9/11	ボルノ州 うち Muna Garage 難民キャンプ		(疑い) 1,283 775	35
		同州 Maiduguri	～9/3	(死亡者含む疑い) 186	14
		同上	～9/5	(死亡者含む疑い) 375	21
		ボルノ州 Dikwa		438	
南スーダン	9/24	ジョングレイ州 Duk 郡	9/18～	(疑い)3～	
		同州 Duk 郡周辺 Poktap、Padiet、 Pajut	6～8 月	疑い患者の報告 あり、人数不明	
南スーダン	9/6	Tonji 州 Tonji East 郡と周辺		新規 8	
		Tonji 州	5～7 月	1,000～	40～
米国	9/15	ミネソタ州	2016 年 8 月	6 (うち確定 1)	

ブルンジ	9/14	ブバンザ州 Kagwema	1週間	(下痢・嘔吐)10～	2
		(参考)隣国コンゴ民主共和国の南キブ州	2017年1～8月	(死亡者含む) 2,700～	22
コンゴ民主共和国	9/10	20州	2017年1月～	(疑い)24,000～	計528～
			2017年7月末以降の週平均	1,500～	
フィリピン	9/6	Albay	9/9～	100～	1
サウジアラビア	9/12	Daier Bani Malik (外国人患者)		11	

イエメンのコレラ (2017年の累積患者数)

日付	累積患者数	累積死亡者数
2017/9/4	612,703	2,048
2017/9/8	635,752	2,062
2017/9/17	686,783	2,090
2017/9/20	704,454	2,103
2017/9/24	725,488	2,110

(2017年8月以前のデータについては食品安全情報(微生物) No.19 / 2017 を参照)

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室